

事業委員会主催・道南技術士委員会共催

技術研修会(宿泊コース)

鉄道・運輸機構 新函館(仮称)駅舎建築現場 函館奉行所等 見学

布村重樹

1. はじめに

本年度の北海道本部事業委員会の視察旅行は道南地域を舞台に行われました。4年振りの函館の視察となり、前回見学した時点では、建設中または改修前であった施設の新たな姿と活用の現状を視察しました。またこれからの北海道の交通インフラとして重要な位置付けとなる新幹線の建設工事現場を中心に視察しました。

日時：

2013年(平成25年)9月13日(金)
～9月14日(土)

見学場所：

北海道新幹線建設現場、七飯歴史館、
函館漁港船入潤防波堤、五稜郭奉行所

参加：

札幌参加 16名、道南技術士委員会 4名

2. 北海道新幹線建設現場



現場事務所での説明

(1)現場事務所での説明

新幹線建設機構 北斗鉄道建設所 山崎所長

見学前にまずは、北海道新幹線の全体の計画概要説明と当工事現場の工事概要を説明していただいた。現場事務所内には新幹線の建設概要やその効果を分かりやすく説明するパネルが常設されており、新幹線が開業することによる経済圏拡大による経済波及効果や環境保全効果などをイラスト等により説明し、見学者に効率的に説明できるように工夫されているのが印象的であった。



熱心に聞き入る参加者

(2)新駅舎建設現場

新駅舎の建設現場の見学は、3階建ての仮設見学足場から全体を見渡す形で行った。この辺りも見学者の安全や工事の進捗に影響を与えないための工夫として感心させられた。



仮設見学足場からの見学

工事は3年後の開業を目指し急ピッチで行われている。最盛期には2,000人近くの作業員がこの現場で作業していたが現在では建築40人程度、土木50人程度の100人弱の体制で工事が行われている。新幹線の車両が250mあり、駅舎としては260mの施設を建設している。北斗市の観光名所であるトラピスト修道院の進入路のポプラ並木をイメージした柱デザインを採用しているそうである。



駅舎内完成予想図

見学場所からは広く見渡せ、駅前広場や周辺の区画整理事業なども並行して進行している様子が良く分かった。



駅舎建築状況

(3) 函館総合車両基地

バスに乗り総合車両基地の建設現場に移動し、また仮設見学足場に登り見学させていただいた。こちらはプレハブ小屋が屋上に設置してあり、より快適な見学環境を提供している。

総合車両基地は道内では唯一この七飯町に建設され、新幹線車両の整備点検・修理などを行う基地となり、東北では仙台にあるそうである。35haの広大な敷地に施設が建設されており、プレロードとプラスチックドレーンによる地盤改良工事と杭基礎工事が盛んに行われている。また現場で大量に発生する汚泥を現場内で改良し埋め戻し材として活用している。



手前の四角の池が汚泥改良池

3. 七飯町歴史館

七飯町の歴史館においては学芸員に説明していただいた。縄文遺跡や七飯町の歴史や幕末の函館戦争時の七飯町の様子を紹介する資料、明治開拓における農業の近代化に重要な役割を担った七飯官園の資料類を丁寧に説明していただいた。



七飯官園のジオラマの説明



ニュートンリンゴ



七飯町で使用されていた農機具

七飯町に西洋農業が日本で始めて導入され、多くの西洋作物が栽培されている。その中でもリンゴの栽培技術は官園から日本中に伝わっている。ニュートンが万有引力を思いついたリンゴの木の子孫が、この歴史館の駐車場脇にあり、多くの参加者が記念撮影していた。その後宿泊先の湯の川温泉竹葉新葉亭に向かった。

4. 函館漁港船入間防波堤

2日目の朝は、まずは函館駅に向かい、朝市並びに渡島総合振興局のアンテナショップ FoodKAN（フードカン）で、珍しい道南特産品の販売状況を視察後、船入間防波堤に向かった。



FoodKAN の視察

船入潤防波堤は、開港し国際貿易港として栄えつつある函館の港の整備、ドックの建設、臨港市街地の形成のための公共事業として整備された。廣井勇博士が計画から施工管理まで行い、近代港湾施設の技術的基礎を確立した。特にここで日本初のコンクリートの品質管理技術を確立した事で我国の近代国家建設に果たした役割は非常に大きい。



函館漁港船入潤防波堤

5. 函館奉行所(五稜郭)

今回は、復元工事の最中を見学した函館奉行所を今回は完成した形で見学した。なるべく建設当時の工法や資材を復元しながら長期間を要して建設したもので職人のプライドが込められた建築物は堂々たる威容を示していた。



函館奉行所

6. 交流会

宿泊は湯の川温泉の竹葉新葉亭でゆっくりと温泉に浸かり、道南技術士委員会のメンバー3人も合流して交流会を行いました。落ち着いた老舗旅館で美味しい料理とお酒で大変盛り上がりました。技術士の大先輩達は一様にお元気な様子で生涯現役で活躍されている話題など大変参考になりました。私自身も先輩達を見習い、生涯現役で社会に貢献したいと思った次第です。また次回の函館の研修会にて元気の皆さんにお会いする事を楽しみにしております。



交流会・宿泊会場(竹葉 新葉亭)

布村重樹(ぬむのら しげき)

技術士(上下水道/建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部 副本部長
道南技術士委員会 委員長
株式会社 ノース技研

